



イラスト：柴崎 昌紀

テストの様々な 活用方法

1 「学年はじめテスト」を必ず実施しよう

学年はじめテストの必要性和作成のロジック

2 単元テスト前の「プレテスト」でしっかり復習させよう

3 テスト返しは「即時フィードバック」で

採点から返却までのシナリオ

4 「学年末まとめテスト」の取り組ませ方

5 「思考・判断・表現」ペーパーテストでの「良い問題例」

6 発達障害の子も安心

「テストの解き方」を授業する

7 漢字の小テストの効果を上げるために

A テストとして

B 復習として

C テスト準備として

2026年
3月号
特集

テストを有効に活用しよう

今年七月。

中教審の教育課程企画特別部会から

豊かな学びに繋がる学習評価の在り方

という論点資料が出されました。

そこでは評価の問題点がいくつか指摘されています。例えば、

- ① 指導と評価の一体化は道半ば
- ② 「主態」評価の理解の難しさ
- ③ 評価場面の精選は十分進まず
- ④ 多面的・多角的な評価は十分ひろがっていない

等々です。

いずれも大切です。

そういった問題点がある中、今でも多くの教室で必ず使われているのが

市販テスト
自作テスト

でしょう。

これらのいわゆる「単元テスト」などは、その使い方を工夫すれば、「指導と評価の一体化」を十分に実現できます。

例えば、「前の学年での到達度」を見るための、

学年はじめテスト

です。全学年の簡単な計算や漢字、言語事項だけでかまいません。これを実施するだけでその後の指導計画が立てやすくなります。

あるいは、単元テストの「直前」に実施する

プレテスト

です。これはテストの形式をとっていま

すが、実質は「効果的な復習」です。これ自体が「形成的な評価」として働きます。さらには、単元テストを実施したあとの採点と返却のタイミングです。

即時フィードバック

と言われます。

低学年と高学年、あるいは中学校では即時フィードバックの方法にそれぞれの工夫が必要です。でも原理は同じです。

テストをしたら、できるだけすぐに返却すること

これだけです。理想としては、テストを提出したらその場で採点し、その場で返却するのが一番効果が高いのです。

今回の特集では学年末に向けて、教室での「テスト」に関わるいくつかの「超実践的」で効果が高い工夫を集めてみました。ぜひ取り入れてみてください。

(本誌編集長 谷和樹)

テストの様々な「活用」方法 A テストとして B 復習として C テスト準備として

学年はじめにテストを行う 2つの意味とロジック

受けもつ学級の実態を把握することは、授業の効果を高めるために必須である。また、教師の身を助けるアイテムともなる。自身で作成するためには、ロジックが必要である。

関西外国語大学教授 まつ ぎき つとむ 松崎 力

新しい学級を受けもつたら、最初の授業で、前年度までの内容が定着しているかを判定する「学年はじめテスト」の実施をお勧めする。これには二つの意味がある。

一つは、学級の実態を把握することである。前年度までの学習内容がどの程度定着しているのかをつかむことによって、授業をする際の留意点が見えてくる。算数を例に取る。「繰り上がり」や「繰り下がり」の定着が不十分という子供に対して、何の改善策も講じず「わり算」の単元を始めてしまえば、当然ながら好成绩を期待することは難しい。特に積み重ねを要する教科においては、前年までの実態を把握することは、とても重要になる。例えば、授業冒頭に時間を確保して、落ち込んでいる内容を補う等の工夫が求められてくる。こういったことを教師に認識させてくれるのが、このテストの役割の一つである。

もう一つは、教師自身の説明責任を果たす資料になることである。新しく受けもつた子供たちの成績を向上させることは教師の使命であるが、実際にそれがうまくいかない場合もある。例えば、受けもつたその年度内での成績が芳しくなかったとする。その成績のことでクレームを受けたとしても、前年度までの定着度と比較して対応するこ

とが可能になる。もともと定着度が悪ければ、責任の所在は分散される。もしくは、「前年度の実態をここまで引き上げることができた」という説明をすることもできる。

このテストは、前年度までの実態を把握することが目的であるが、時間的制約の多い年度当初に実施するのでテストは一枚にしたい。しかし、広範囲にわたった問題を取り入れて作成しようすると、一枚にまとめるのは至難の業となる。

そこで、このテストのねらいを「基礎学力が定着しているか」と考える。では、国語の基礎学力は何を尺度にして求めればいいのか。千代田区立九段中等教育学校（二〇〇八年）によれば、「語彙力・漢字力を身に付けている生徒は、国語全体の能力も高い」と、相関関係を示している。この結果を参考にすれば、国語は漢字の習得率を見ればよい。算数においては、計算力が中心になるだろう。

ただ、このようなテストを作成するには、かなりの教材研究力が求められる。私は、正進社のテストに付いている「はじめテスト」を強烈にお薦めする。教材開発のプロが多様な知見と実績を基に作成しているので、安心である。